

The Optoelectronics and Communications Conference(OECC)  
The International Conference on Optical Internet(COIN)  
(発表者: 鈴木, 石田)

1. 会議の概要

- 名称:  
The Optoelectronics and Communications Conference(OECC)  
The International Conference on Optical Internet(COIN) 2004
- 主催: IEICE Communications Society, IEICE Electronics Society
- 共催機関: IEEE COMSOC, IEEE LEOS, OSA, SPIE, KICS, The Institution of Engineers Australia
- 開催場所: パシフィコ横浜
- 日時: 12 - 16 Jul 2004
- 歴史・スコープ: 今年で9回目に向けたOECCは、毎年、アジア太平洋地域で開催されており、光通信システムやオプトエレクトロニクスに関する研究開発や応用をテーマとした国際会議である。主なトピックスは以下の通りである。
  - 1)光ネットワークアーキテクチャー
  - 2)光ネットワークコントロールとマネージメント
  - 3)伝送システム技術
  - 4)光ファイバ、ケーブル、ファイバデバイス
  - 5)光アクティブデバイス
  - 6)光パッシブデバイス
- 発表件数: Oral 329件、Poster 133件、PD 10件

2. 感想

- (鈴木)  
7/16(金)の午前9時より、「Optical pulse generation by controlling the sidebands of the phase modulated light」というタイトルで発表した。短パルス発生に関する研究成果を国際会議で報告するのは初めてであったため、聴講者の反応を楽しみしていた。パルス発生の原理説明及びシミュレーション、実験結果報告が主な内容である。本研究の特徴は、あるスペクトル幅を持った光源をAWGシンセサイザ内でパルス整形し、任意形状のパルス発生を行なう点にある。光源として、CW光とLN位相変調器の組み合わせを利用した。我々が提案するパルス整形システムの原理を理解してもらう必要があったため、発表では、原理説明とシミュレーション方法に多くの時間を割いた。  
質疑応答では、「AWG内でスペクトル分波した際の精度(ノイズ問題などの影響?)に対してコメントしてください」という質問があった。位相変調光のスペクトル間隔とAWGのスペクトル間隔を一致させているので、スペクトル分波の精度は高いと思われる。
- (石田)  
学会全体については、国内で開催される国際会議でしたが、ひとたび会場へ足を踏み入れると外国人ばかりだったのでやはり緊張しました。OFCの時と同様、発表を聞き取って理解するのはかなり困難でした。  
自分の発表では、あまり緊張せずに発表できましたが、やはり質疑応答では単語が思い浮かばずあわてました。勢いで押し切ったように思います。  
他の発表に関しては、今までは材料の性質の変化を利用して光を制御するデバイスしか見たことがなかったので、形状の変化を利用しているデバイスが大胆で面白く感じられました。
- (駒田)

今回、初めて国際会議を聴講して、専門用語などの意味や専門的な内容の知識はまだまだ不十分であり、また英語での発表のため理解するのは非常に困難であった。しかし、国際会議の雰囲気や内容等がわかり、非常に有意義な場であったと思います。

---